



国立大学法人 千葉大学

大学院園芸学研究科・園芸学部

CHIBA UNIVERSITY Graduate School of Horticulture, Faculty of Horticulture

# 千葉大学大学院 園芸学研究科 園芸学部

## 教職員紹介 パンフレット

食と緑のフロンティアへ



CHIBA UNIVERSITY

Faculty of Horticulture

# 《索引》

## 【生物資源科学コース】

### 栽培・育種学領域

三吉 一光	教授	花卉園芸学、園芸育種学	・・・1
近藤 悟	教授	果樹および果実発育生理	・・・2
磯田 昭弘	教授	作物学	・・・3
丸尾 達	教授	蔬菜園芸学、施設栽培学、養液栽培、植物工場、 苗生産、種子工学	・・・4
國分 尚	准教授	花卉園芸学、植物系統学	・・・5
浄閑 正史	准教授	蔬菜園芸学	・・・6
塚越 寛	准教授	蔬菜園芸学	・・・7
渡辺 均	准教授	花卉園芸学、健康機能性植物生産学	・・・8
大川 克哉	講師	果樹園芸学 園芸産業創発学 <sup>プログラム</sup> 担当	・・・9
齋藤 隆徳	助教	果樹園芸学	・・・10
出口 亜由美	特任助教	花卉園芸学	・・・11
中村 郁郎	教授	植物育種学、植物分子分類学	・・・12
佐々 英徳	教授	植物育種学、植物分子遺伝学	・・・13
菊池 真司	准教授	分子細胞遺伝学、遺伝学、植物育種学	・・・14
井川 智子	准教授	植物バイオテクノロジー、植物生殖学	・・・15
木庭 卓人	名誉教授	遺伝育種学	・・・16

### 生物生産環境学領域

椎名 武夫	教授	農業環境工学	・・・17
松岡 延浩	教授	農業気象学、自然災害科学	・・・18
小川 幸春	准教授	農産食品工学	・・・19
彦坂 晶子	准教授	環境調節工学	・・・20
穴戸 雅宏	教授	植物病学	・・・21
野村 昌史	准教授	応用昆虫学、昆虫分子系統学、昆虫系統地理学	・・・22
宇佐見 俊行	准教授	植物病理学	・・・23
長 泰行	准教授	行動生態学	・・・24
犬伏 和之	教授	土壌学	・・・25
中牟田 潔	教授	化学生態学	・・・26
坂本 一憲	教授	植物栄養学、根圏微生物学、土壌微生物学	・・・27
八島 未和	講師	土壌肥料学	・・・28

### 応用生命化学領域

西田 芳弘	教授	糖質化学、生物有機化学	・・・29
渡辺 正巳	教授	植物生化学、植物細胞生物学	・・・30
児玉 浩明	教授	生物化学	・・・31

土肥 博史	准教授	糖質科学	・・・32
園田 雅俊	講師	植物分子生物学	・・・33
相馬 亜希子	講師	分子生物学	・・・34
江頭 祐嘉合	教授	食品栄養学、分子栄養学、食品生化学	・・・35
天知 誠吾	教授	応用微生物学、環境微生物学	・・・36
華岡 光正	准教授	植物分子生物学	・・・37
平井 静	准教授	食品機能学、分子栄養学	・・・38
島田 貴士	助教	植物細胞生物学、植物生理学、植物病理学	・・・39

## 【緑地環境学コース】

### 環境造園学領域

木下 勇	教授	都市計画学、農村計画学	・・・40
古谷 勝則	教授	造園計画学、風景計画、緑地保全活動	・・・41
齋藤 雪彦	准教授	まちづくり、農村計画・都市計画	・・・42
霜田 亮祐	准教授	風景計画学・ランドスケープアーキテクチャ	・・・43
池邊このみ	教授		・・・44
三谷 徹	教授	ランドスケープデザイン	・・・45
章 俊華	教授	ランドスケープデザイン	・・・46
木下 剛	准教授	造園学、ランドスケープデザイン	・・・47
柳井 重人	准教授	環境造園学・緑地環境管理学・ ランドスケープマネジメント	・・・48
秋田 典子	准教授	緑地環境管理学、土地利用計画、 空間マネジメント	・・・49
近江 慶光	助教	環境植栽学	・・・50

### 緑地科学領域

本條 毅	教授	緑地環境情報学	・・・51
梅木 清	准教授	森林生態学、植物生態学	・・・52
小林 達明	教授	再生生態学	・・・53
百原 新	教授	植生史学、植物生態学	・・・54
高橋 輝昌	准教授	再生生態学	・・・55
加藤 顕	助教	森林リモートセンシング	・・・56

### 環境健康学領域

宮崎 良文	教授	自然セラピー学	・・・57
岩崎 寛	准教授	緑地福祉学、環境健康学、人間・植物関係学	・・・58
三島 孔明	准教授	環境教育、食農教育、人間植物関係学	・・・59
野田 勝二	助教	果樹園芸学、園芸福祉	・・・60

## 【食料資源経済学コース】

### 食料資源経済学領域

櫻井 清一	教 授	農業経済、食品流通、農村社会	・・・61
吉田 義明	准教授	農業経営学、社会政策論	・・・62
矢野 佑樹	講 師	農業・環境経済	・・・63
石田 貴士	助 教	計量経済学、マーケティング論、 消費者行動論	・・・64
大江 靖雄	教 授	農業経済学、農村経済学、農村ツーリズム、 農業経営多角化	・・・65
高垣美智子	教 授	熱帯農学	・・・66
小林 弘明	教 授	食糧資源経済学	・・・67
栗原 伸一	教 授	農業経済学、農業経営学	・・・68
丸山 敦史	准教授	農業経済学	・・・69
加藤 恵里	特任助教	農村社会学・林政学	・・・70

三吉一光 教授 農学博士

専門：花卉園芸学、園芸育種学



居室：C-203

E-mail：miyoshi@chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

- ・遠縁交雑および染色体倍加による花き園芸植物の新素材の創成。
- ・ラン科植物における半数体の誘導と利用。
- ・施設栽培環境に適応したダリア切り花用の品種の育成；抵抗性育種ならびに草型育種に関する研究。
- ・ラン科植物等の難繁殖性希少植物の発芽生理と域外保全

(2) コンサルタント可能なテーマ

- ・ダリアの営利栽培全般
- ・ラン科植物の人工増殖と域外保全に関して

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・なし

近藤 悟 教授 農学博士

専門：果樹および果実発育生理



居室：C-209

E-mail：s-kondo@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/kazyu>

#### (1)主な研究内容

1. 果実の発育（細胞壁崩壊、着色色素アントシアニン合成、香気成分合成など）における生理活性物質の役割、とくに発育制御に関わるアブシシン酸、ジャスモン酸、エチレンのクロストークの解析を、ガスクロマトグラフィーマスマスペクトロメトリー（GC/MS）などの機器分析、生理活性物質代謝酵素の遺伝子の発現解析の面から研究している。
2. 植物ホルモンの代謝制御による、植物の乾燥および高塩など環境ストレスに対する耐性技術の開発を行っている。（特許：2016年1月：第5866710号）
3. 果樹の花芽分化誘導に関連する生理活性物質の動態の解析を高速液体クロマトグラフィーマスマスペクトロメトリー（LC/MS）など機器分析を通じて解析している。さらに、花芽形成関連遺伝子の発現への影響を解析している。
4. 果実の機能性（抗酸化活性）および抗酸化物質（ポリフェノール、カロテノイド、ビタミン等）の産生と植物ホルモンの関わりを検討し、生理活性物質による病害抵抗技術の開発を行っている。（特許願：2016年1月：2016-008619）
5. 太陽光およびLEDを利用した植物工場における果樹栽培および当該環境が生理活性物質に及ぼす影響を検討している。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

果樹の栽培全般、果樹の機能性物質、植物生長調節物質、果樹の施設栽培

（例）健康に寄与する果実成分、果樹および果実の成長を促進あるいは抑制する技術、LED利用による果実栽培のメリット等

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- 1: 植物ホルモンの代謝制御による、植物の乾燥および高塩など環境ストレスに対する耐性技術の開発（特許：第5866710号）
- 2: 果実用病害防除剤および果実の病害防除方法の開発（特願：2016-008619号）

磯田昭弘 教授 農学博士

専門：作物学



居室：C-302

E-mail：isoda@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/crop/Isoda.html>

(1) 主な研究内容

1. マメ科作物の生産性向上の研究

ダイズ、ラッカセイ等のマメ科作物の収量を向上させるため、生理生態的形質的特性の解明、および栽培技術の改善の研究を行っている。

2. 乾燥地農業の生産性向上の研究

中国新疆を研究場所として、様々な手法を用いて乾燥地域での作物生産性の向上と節水栽培を図っている。

3. 環境ストレスに対する作物の適応に関する研究

水ストレス、高温等の環境ストレスに対する作物の適応性について、光合成関連形質、蒸散能力、乾物生産等の面から検討している。

4. 水稻の点滴かんがい栽培

水稻を畑地状態で点滴かんがいを用いて栽培する技術の確立を目指している。節水、地球温暖化ガス発生抑制等の効果があり、水稻栽培地域の拡大が見込める。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

作物栽培全般、作物の収量性の評価、作物の生理生態的形質の測定、乾燥地農業、中国農業

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

丸尾 達 教授 農学博士

専門：蔬菜園芸学、施設栽培学、養液栽培、植物工場、苗生産、種子工学



居室：C-204

E-mail：maruo@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/sosai/>

<http://npoplantfactory.org/>

(1) 主な研究内容

1. 太陽光型植物工場
  - ・ 施設園芸における高度環境制御技術の開発
  - ・ 植物工場用統合環境制御システムの開発
  - ・ 植物工場におけるニラの周年安定生産方法の開発
2. 人工光型植物工場
  - ・ 人工光型植物工場における養水分吸収特性に関する研究
  - ・ 人工光型植物工場における培養液管理に関する研究
3. 養液栽培システム
  - ・ 低カリウムトマトの効率的商業生産システムの開発
  - ・ 高糖度トマトの多収生産方法に関する研究
  - ・ 養液栽培システムを活用した果菜類の転流動態の解明
4. 専用品種の育成
  - ・ レタス（人工光型植物工場用・太陽光型植物工場用品種）
  - ・ イチゴ（人工光型植物工場用品種）
  - ・ トマト（太陽光低段密植栽培専用品種）

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 太陽光型植物工場
- ・ 人工光型植物工場
- ・ 種子工学
- ・ 養液栽培システム
- ・ 専用品種の育成

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

イチゴ種子を得る方法（特願2007-040318号（IPC）：A01H1/04 A01G1/00）

培養液の浄化方法及び浄化装置（特開2015-216854）

液肥の給液装置及び給液方法（特開2015-112052）



國分尚 准教授 博士（農学）

専門：花卉園芸学、植物系統学



居室：B-234

E-mail：hkokubun@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/florista/kokubun/kokubunJ.html>

(1) 主な研究内容

1. 観賞植物野生種の系統分類と品種の起源、形質の解析
  - ・フロックス属（ハナシノブ科）園芸品種の起源と成立過程
  - ・フロックス属の花色に関する研究
  - ・シバザクラとキキョウナデシコ、クサキョウチクトウの品種の色素構成
  - ・シバザクラとキキョウナデシコ、クサキョウチクトウの品種の色素合成系遺伝子の解析
  - ・クサキョウチクトウ青花品種が赤紫に変化する原因
  - ・フロックス属の自家不和合性
2. 植物園の目録データベース開発 (Ruby on Rails+TNTmips による新規データベース開発)

(2) コンサルタント可能なテーマ

- ・野生化した園芸植物、帰化植物などの同定
- ・突然変異などで生じた新しい花色の色素・原因分析
- ・ウェブ上で公開できるデータベースの開発

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究  
なし

(4) その他の社会的活動

- ・中央職業能力開発協会 中央技能検定委員 園芸装飾（室内園芸装飾作業）（2005～）
- ・（一社）花葉会 理事（花葉会は花卉園芸学研究室の同窓会で、会員相互の親睦、研鑽と情報交換を図ると共に、花卉園芸界の発展に寄与することを目的として活動している団体です。2015年4月に法人化しました。）

浄閑 正史 准教授 博士（応用生命科学）

専門：蔬菜園芸学



居室：C-206

E-mail：johkan@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/sosai/

(1) 主な研究内容

- ・果菜類の転流機構と多収メカニズムの解明
- ・高糖度トマトの多収生産法の開発
- ・トマトやイチゴの輸出を可能とする長期貯蔵法の開発
- ・トマト果実のスペックを可視化する非破壊センサの開発
- ・エダマメの養液栽培体系の開発
- ・人工光型植物工場での赤色系レタス栽培体系の開発
- ・低カリウムレタスの量的施肥管理法の開発
- ・苗生産で発生する intumescence 発生機構の解明

(2) コンサルタント可能なテーマ

- ・太陽光利用型植物工場
- ・人工光型植物工場
- ・苗生産

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・レタスの養液栽培方法（特開 2012-000017）
- ・リーフレタスの栽培方法及び栽培施設（特開 2012-055202）
- ・葉菜類の栽培方法（特許第 6096407 号）
- ・ナス科植物における生理障害の抑制法（特願 2015-132237）
- ・トマト果実の追熟方法（特願 2015-150266）
- ・植物の栽培方法及び植物栽培用照明（特願 2017-178521）

塚越 覚 准教授 博士（農学）

専門：蔬菜園芸学



居室：環境健康フィールド科学センター 209

E-mail：tsukag@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.fc.chiba-u.jp/

(1) 主な研究内容

太陽光型植物工場における野菜生産  
人工光型植物工場における野菜生産  
高機能性野菜の生産技術  
培養液環境の最適化技術

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

太陽光型植物工場  
人工光型植物工場  
養液栽培（特に培養液管理）

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

渡辺 均 准教授 博士（農学）

専門： 花卉園芸学、健康機能性植物生産学



居室：環境健康フィールド科学センター 304

E-mail：hwatanabe@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：

<http://www.fc.chibau.jp/gaiyou/gyoumuhp/naeseisan/watanabe.html>

ブログ：<http://naeseisan2.blogspot.jp/>

#### (1) 主な研究内容

- ・ 花卉類の効率的苗生産技術に関する研究
- ・ ペチュニアとカリブラコアに関する遺伝資源解析
- ・ 健康機能性植物（薬用植物など）の育種・生産に関する研究
- ・ 屋上緑化・壁面緑化に関する研究

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 花卉類の生産技術・販売技術
- ・ 健康機能性植物に関する収集、評価（分析）、生産、系統選抜など
- ・ 野生植物の系統解析
- ・ 屋上緑化・壁面緑化技術
- ・ 地域の花壇・緑化活動に関する技術指導

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

大川 克哉 講師 博士（農学）

専門：果樹園芸学 園芸産業創発学プログラム担当



居室：B-106

E-mail：ohkawak@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/kazyu

(1) 主な研究内容

1. 果樹の養液栽培および根域制限栽培などによる果樹のシステムの生産技術，周年果実生産技術，早期成園化技術，環境制御技術に関する研究および技術開発を行っている。
2. 太陽光利用型植物工場における LED による光環境制御および炭酸ガス施用が果樹の生育，果実形質，光合成特性，物質生産に及ぼす影響について研究している。
3. 閉鎖型苗生産システムの利用および養液栽培による効率的な果樹苗生産技術に関する研究および技術開発を行っている。
4. 果樹，特にニホンナシ果実の生理障害の発生機構について植物生理学的，組織学的，栽培環境的面から検討を行い，果実生理障害発生の軽減・防止法に関する研究および技術開発を行っている。
5. 植物成長調節剤の作用性および実用化に関する研究および技術開発を行っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

果樹栽培全般，果樹の養液栽培，果樹の根域制限栽培，果樹の施設栽培，植物工場，果樹苗生産，果樹における LED 等光環境制御，果樹における炭酸ガス施用，植物成長調節物質，果実の発育・成熟制御，果実生理障害

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

齋藤 隆徳 助教 博士（農学）

専門：果樹園芸学



居室：図書館上 203

E-mail：takanori\_saito@chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

落葉果樹の自発休眠現象における、エピゲノム変化および長鎖非翻訳 RNA の役割について、次世代シーケンサーなどを用いた分子生物学的な手法により解析を行っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・非モデル植物を対象としたバイオインフォマティクス解析およびそのサポート
- ・研究室等の小規模な職場における業務の効率化をサポートする簡易プログラムの作成（主に windows 環境を対象としています）。

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当なし

出口亜由美 特任助教 農学博士  
専門：花卉園芸学



居室：C-202

E-mail：deguchia@chiba-u.jp

ホームページ

<https://sites.google.com/site/chibakaki/>

#### (1) 主な研究内容

花の模様や珍しい花色がどのような制御で生じているのかを遺伝子解析によって明らかにし、育種へ応用するための研究をしています。また、環境により変化しやすい花色を指標として、植物の環境応答の仕組みや病原体とのインタラクションについて調査することで、より良い栽培管理法の開発を目指しています。

#### テーマ

- ① 花卉の黒色発現の機構解明  
-主にダリアの黒色品種を用いて、花卉が黒色になる分子メカニズムを調査します。
- ② 花卉の裏表で色が異なる機構の解明  
-花卉裏白カーネーションを用いて、花卉細胞層ごとの遺伝子発現を調査し、花卉の裏表での着色制御の違いを明らかにします。
- ③ 環境が花色パターンに与える影響とその機構解明  
-株や枝ごとに異なる花色パターンを示すダリア品種を用いて、様々な環境下での栽培実験と次世代シーケンスを用いた遺伝子解析を行うことで、花色パターンを変化させる環境因子およびその制御機構を解明します。
- ④ 花卉折れ傷が目立たないダリア黄色品種の開発  
-流通の障壁となる花卉の折れ傷が出にくい黄色品種の育種を行います。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

花色、育種、環境応答、エピジェネティクス、次世代シーケンス、ダリア、アントシアニン

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

今のところありません。将来的に、ダリアの球根に蓄積する「イヌリン」を有効利用するための研究をしたいと考えています。

中村 郁郎 教授 農学博士

専門： 植物育種学、植物分子分類学



居室：B-205

E-mail： [inakamur@faculty.chiba-u.jp](mailto:inakamur@faculty.chiba-u.jp)

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/saiboko/>

(1) 主な研究内容

1. 遺伝子組換え技術を用いた病虫害および環境ストレス抵抗性の園芸作物の作出
2. DNA 解析技術を用いた園芸植物の種分化や類縁関係の解析
3. フローサイトメーターを用いた園芸植物の倍数性の解析

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物の遺伝子組換え技術、遺伝子組換え食品、  
植物の組織培養、増殖、倍加植物の作出  
園芸植物の倍数性の解析  
雑種植物の判定、祖先種の推定、品種鑑定、  
病原微生物、外来生物、希少生物などの種判定

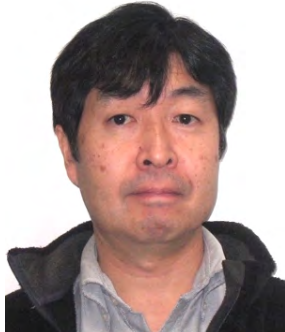
(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

植物、微生物など真核生物の種の同定法（特開 2016-129518）  
植物、微生物など真核生物の種に特異的なアミノ酸配列、siRNA の応用



佐々 英徳 教授 博士（学術）

専門：植物育種学 植物分子遺伝学



居室：B-203

E-mail：sassa@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/iden/

### (1) 主な研究内容

#### <自家不和合性分子機構の研究>

植物の多くは、同じ花の花粉が雌しべに受粉しても花粉管が胚珠に到達せず種子ができない「自家不和合性」という性質を示す。バラ科果樹（ナシ、リンゴなど）では、例えばナシの果樹園を「幸水」だけにして放っておくと、果実がなくなってしまう。バラ科果樹およびナス科植物（ペチュニア、トマト野生種など）を対照に、自家不和合性の仕組みを遺伝子・タンパク質レベルで研究している。自家不和合性に関わる遺伝子の探索、それら遺伝子の作るタンパク質を大腸菌や実験用植物で作らせ、その性質や働きを分析している。

### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

自家不和合性、バラ科果樹、ナス科植物、遺伝子配列解析、遺伝子発現解析、組換えタンパク質発現、タンパク質間相互作用解析

### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

菊池真司 准教授 農学博士

専門： 分子細胞遺伝学、遺伝学、植物育種学



居室： B-201

E-mail： skikuchi@faculty.chiba-u.jp

ホームページ： <http://www.h.chiba-u.jp/lab/iden/>

#### (1) 主な研究内容

- ・ 染色体観察による染色体数の決定、形態異常の調査、配偶子不稔の原因究明を実施
- ・ ゲノミック *in situ* ハイブリダイゼーション (GISH) 法による雑種性の判定や転座等の検出
- ・ 蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション (FISH) 法で染色体の反復配列や遺伝子配列を蛍光検出させて、植物の染色体の核型分析や遺伝地図との統合などを実施
- ・ FISH 法によるゲノム・アッセムブルの実施および検証
- ・ 放射線照射で誘発された染色体突然変異の観察と計測、後代系統の染色体構成の決定

#### (2) コンサルタント可能なテーマ

- ・ 植物の染色体観察法の開発、染色体数の決定
- ・ 不稔の原因究明のための減数分裂や花粉管伸長の観察
- ・ GISH 法による種間・属間雑種の雑種性や異種染色体断片の挿入の可視化
- ・ 新規反復配列の単離と染色体マーカー化 (染色体 DNA の可視化技術の開発)
- ・ BAC 配列等の蛍光検出 (染色体上の位置やゲノム・アッセムブルの検証)
- ・ ファイバーFISH 法による微細な染色体構造の解明
- ・ 染色体の免疫染色技術の開発と染色体マーカーとの同時検出
- ・ その他、植物の染色体に関するテーマ全般

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当なし

#### (4) その他の社会活動

- ・ 一般財団法人 染色体学会 評議員
- ・ Chromosome Science 編集委員

井川智子 准教授 博士（農学）

専門：植物バイオテクノロジーおよび植物生殖学



居室：B-206

E-mail：tigawa@chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/saiboko

(1) 主な研究内容

植物改良を目標として、基盤となる生命現象の解明や改良技術開発に関する研究を行っている。

1. 被子植物の優勢生殖プロセスを制御する遺伝子やタンパク質の機能解析、特に花粉発生や重複受精をコントロールする因子の同定と機能解析を分子生物・生化学・細胞形態学的な手法によって解析している。
2. ゲノム編集研究：CRISPR/Cas9 システムを用いて狙った遺伝子を破壊し、有用な園芸作物の開発を行っている。また、モデル植物を対象として遺伝子の機能解析研究も行っている。
3. 植物の再分化や組み換え細胞の識別を容易にする遺伝子組換えベクターシステムの開発を行っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物バイオテクノロジー、遺伝子導入ベクター構築、花粉稔性、顕微鏡観察

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当無し

園芸学研究科 生物資源科学コース 栽培・育種学領域

木庭卓人 名誉教授 博士（農学）

専門： 遺伝育種学



居室：図書館上 208

E-mail: koba@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/iden/>

(1) 主な研究内容

- ・ 園芸植物の分子細胞遺伝学的核型解析と近縁種間の核型変異に関する研究
- ・ 分子マーカーを利用した園芸植物の育種法に関する研究
- ・ 倍数性植物の染色体変異とゲノム進化に関する研究
- ・ コムギの異種植物との交雑親和性に関与する遺伝子に関する研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 分子マーカーを利用した育種法
- ・ 倍数性育種法
- ・ 植物染色体観察法（基礎的手法から分子的手法まで）

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

椎名武夫 教授 博士（農学）

専門： 農業環境工学



居室：C-311

E-mail：shiina@chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/machine/>

(1) 主な研究内容

- ・園芸農産物の品質管理技術
- ・園芸農産物の Omics 解析
- ・園芸農産物の品質変化のモデル化と予測
- ・ライフサイクルアセスメント（LCA）

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・青果物の品質保持
- ・食品流通における環境計測
- ・品質変化の解析とモデル化
- ・緩衝包装設計のための試験条件の設計

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・園芸農産物の高品質流通技術の開発に関する研究
- ・園芸農産物の品質保証技術の開発に関する研究

松岡延浩 教授 農学博士

専門：農業気象学, 自然災害科学



居室：C304

E-mail: [matsuoka@faculty.chiba-u.jp](mailto:matsuoka@faculty.chiba-u.jp)

ホームページ <http://www.h.chiba-u.jp/lab/gmet/>

(1) 主な研究内容

- ・植物群落上でエネルギーフラックスあるいは物質フラックスを計測して、植物群落と大気の熱、水、物資をやりとりしているかを計測し、「群落および周辺の温度環境制御法」を開発する。
- ・農耕地から発生するダスト(砂塵)の発生予測法および防止法を開発する。
- ・植物体内水ポテンシャルの計測あるいは土壌水分量の計測によって、植物に今どの位水与えればよいか、将来どの位水をやれば良いかという、「灌漑計画法」を開発する。
- ・どのようにして、植物の持つ情報を、植物を破壊しないで取得するか、「リモートセンシング技術」を開発する。

(2) コンサルタント可能なテーマ(キーワード)

- ・気温、湿度、日射、赤外線、風速、雨量など農業経営等の基盤となる気象環境の測定
- ・地面から発生する砂塵の抑止と農作物等への影響の軽減方策
- ・農産品の品目別の適切な灌漑量(農作物にどの位水をやれば良いか)の決定
- ・農業気象災害(冷害、霜害、風害)の防止方策
- ・農地の温度上昇、抑制など気象環境改善方策
- ・衛星・近接リモートセンシングを応用した植物の生育状況の把握

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

現在なし

(4) その他の社会的活動

- ・鳥取大学乾燥地研究センター共同研究委員
- ・電力中央研究所水文分野評価委員・アドバイザー
- ・千葉県建設工事総合評価委員
- ・市川市環境評価委員
- ・日本農業気象学会総務理事他
- ・日本農業農村工学会代議員他
- ・日本自然災害学会研究企画委員他

小川幸春 准教授 博士（農学）

専門：農産食品工学



居室：C-310

E-mail：ogwy@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/machine/ogawaj.htm

(1) 主な研究内容

農産物が収穫されたあと、保蔵や輸送などのポストハーベスト工学的操作を経て加工・調理されるまでの一連のプロセスにおいて食品材料の顕微構造変化、物性変化、化学組成変化について調査、検討している。また、それらの消化性も合わせて計測・評価している。現在は特に、『植物性食品の消化性に及ぼす加工・調理法の影響』、『カット加工された植物組織の品質維持法確立』、について重点的に研究を進めている。

1. 米飯に関する研究

白米をはじめ粥状や粉末成形したコメ由来食品の消化性を粒組織の構造的な観点から調査、検討し、調理や加工操作による消化性コントロール技術確立を目指している。また、炊飯中の米粒構造が変化する様子を顕微鏡観察によって可視化するとともに物性や成分組成の変化と組み合わせて解析することで、米飯の品質コントロールも目指している。

2. 調理、加工による植物性食品の特性変化

キノコ子実体、メンマ、セロリなどの繊維状食品が加熱、発酵、脱水される際の変化を成分組成、力学物性、組織構造視点から多角的に検討し、特徴的な食感が生じる原因の解明やテクスチャの制御法確立を目指している。

3. カット野菜の保蔵性向上技術の開発

ガスや光条件を調節した環境下でカット加工された植物組織片を保蔵し、品質に関わる特性変化について調査、検討している。またそれらの結果を保蔵法としてフィードバックすることで、より長期の品質維持が可能な保蔵法確立も目指している。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

食品素材・食品の物性計測・評価、成分分析、顕微構造観察・評価、in vitro 系での消化性評価、など。

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

1. 植物栽培担体（特許第 5794673 号）
2. 青果物用容器及びこれを用いた青果物の保存方法（特許第 6011780 号）

彦坂 晶子 准教授 学位 博士（農学）

専門：環境調節工学



居室：B-218

E-mail：s-hikosaka@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/kanko/index.html

(1) 主な研究内容

- ・環境ストレスを利用した野菜の機能性成分向上
- ・UV照射による野菜苗のストレス耐性の向上
- ・光・水分環境制御による果菜類（トマト、キュウリ）の効率生産
- ・環境制御による薬用植物（シソ、スイカズラ、甘草、ミントなど）の効率生産
- ・遺伝子組換え植物（イチゴ、タバコ）による有用物質生産
- ・生育モデルを利用した温室内環境制御技術の開発

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・植物生産に適した環境制御技術（光、気温、湿度、二酸化炭素）
- ・食用、薬用、遺伝子組換え植物の効率生産
- ・光合成産物の転流と蓄積
- ・組織培養など

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究



矢戸 雅宏 教授 Ph. D.

専門：植物病学



居室：B-211

E-mail：shishido@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/shishido\\_m.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/shishido_m.html)

### (1) 主な研究内容

植物の病気を長期間にわたって上手に防除することは、病気に関わる生物資源を上手に管理することに他なりません。これに関して、植物病理学は植物宿主（素因）と病原微生物（主因）という2つの明確な生物を効果的に管理する知識を提供してくれます。植物病理学者は、長年にわたって、この2つの生物間の関係を、主に2者の生活に関わる因子が直接含まれる系で研究し、2者の管理、即ち病害防除の効果向上に寄与してきました。しかし、自然界での病害生態系は、この2者の他に病害発生に間接的に関わる環境因子（誘引）が重要な役割を果たしています。実際、この誘引に関わる部分が増えれば増えるほど、私たちが宿主と病原体の関係や行動を予測するのに役立つ知識の相対量は減って行きます。

ところで、土壌病害には防除が困難な病害が多く含まれていますが、それは土壌病原菌を見つけ難いこと、そして、その量が時間と共に複雑に変化することに起因しています。一般に、より多くの環境因子が関われば、その生態系はより複雑なものとなり、系の将来を予測することは難しくなります。私は土壌中に潜む植物病原菌をモニタリングし、植物宿主と病原菌との関係を正確に理解することで、より効果的な防除法を考案することを目的として、土壌伝染性病害の発生・進展の機構を研究しています。私の最終的な研究目標は「土壌病原菌の適応防除」です。

### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物病原生態学, 土壌病害, 植物保護, 適応防除

### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・ 植物病原菌の検出法、定量法に関する研究
- ・ 植物病害予測に関する研究

野村昌史 准教授 農学博士

専門： 応用昆虫学, 昆虫分子系統学, 昆虫系統地理学



居室：B-209

E-mail：nomuram@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/insect/

#### (1) 主な研究内容

- ・キャベツ等野菜類のキンウワバ類などのチョウ目害虫の生態解明と防除法開発を実施
- ・野菜類の害虫に対する天敵昆虫の生態解明とその利用に関する研究の実施
- ・昆虫の進化の道筋を解明することを目的として DNA を用いた昆虫の分子系統解析の実施
- ・日本列島における遺伝的な種内変異を把握するため、また種分化しつつある種を明らかにするために遺伝子による種内変異解析の実施
- ・昆虫とその細胞内共生微生物との相互作用および生殖操作に関する研究の実施
- ・アクトグラフやフライトミル装置を用いた昆虫の飛翔行動解析の実施

#### (2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

- ・環境に優しい害虫防除に関する研究(光照射、天敵利用など)
  - ～特定の昆虫に対する光の影響について装置等が整っている
  - ～農業害虫に対する新たな天敵昆虫の探索
- ・食品混入害虫に関する研究
  - ～昆虫が工場に侵入しない光照射法の開発
  - ～侵入した昆虫の混入場所とその分類、同定および対策

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

夜間に点滅黄色 LED 光を照射することで、感光性植物の開花に影響がなくヤガ類成虫の行動を制御する共同研究を行い、2016 年に下記の特許を取得した。

特許第 5930516 号「植物の照明栽培方法、防虫用照明装置、および防虫用照明システム」

吉村文敏・細野幸治・渡辺昌規・石倉 聡・山下真一・平間淳司・野村昌史・尹 丁梵・東浦 優・二井清友・岩井豊通・山中正仁

#### (4) その他の社会的活動

- ・著書(分担執筆)「昆虫ワールド」(井上大成・小野正人 編), 玉川大学出版 (2017)
- ・著書(共著)「ひと目でわかる病害虫の症状・予防・対策 (基礎の基礎からよくわかる)」, ナツメ社, 東京 (2015)

宇佐見俊行 准教授 博士（農学）

専門：植物病理学



居室：B-210

E-mail：usami@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/patholog/usami/

(1) 主な研究内容

- ・植物病原菌の病原性を決定する遺伝因子の解明
- ・植物に発生した新規病害の同定や性状調査、防除法の検討
- ・植物病原菌の遺伝的分化に関する研究
- ・植物病害に対して抵抗性および耐病性を持つ品種の選抜および評価
- ・土壌伝染性病害の防除法に関する研究
- ・土壌伝染病菌と植物寄生性センチュウによる複合病害に関する研究
- ・植物工場に発生する病害に関する研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

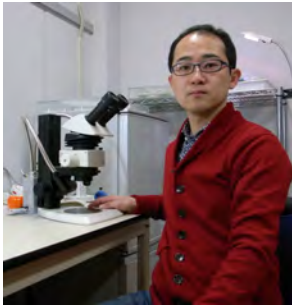
- ・植物病害の診断、同定
- ・植物品種の抵抗性評価
- ・植物病原菌の検出
- ・植物病原菌の防除試験

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・植物病害の防除技術に関する研究
- ・微生物の消毒技術に関する研究

長 泰行 准教授 理学博士

専門：行動生態学



居室：B-208

E-mail：choh@faculty.chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

- ・ 植物の害虫に対する防衛反応
- ・ 害虫の天敵からの捕食回避行動
- ・ 同じ害虫を食べる天敵 2 種間で生じるギルド内捕食

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

動植物間相互作用、捕食者一被食者間相互作用、行動生態学、誘導反応、ギルド内捕食

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

現在なし

犬伏和之 教授 農学博士

専門：土壌学



居室：B-107

E-mail: [inubushi@faculty.chiba-u.jp](mailto:inubushi@faculty.chiba-u.jp)

ホームページ：<http://www.h.chiba-u.jp/lab/soil/>

#### (1) 主な研究内容

土壌は陸地を広く薄く覆っており、無機物・有機物・生物とから成る生物生産や生命活動に不可欠で地球にしか存在しない有限な資源のひとつである。土壌学研究室では、土壌の果たす持続可能な生物生産機能や環境保全機能の解明とその働きを維持・強化するための研究を行っている。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

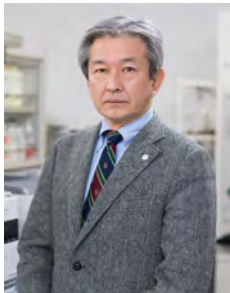
土壌修復、コンポスト、堆肥、土壌汚染浄化、環境保全型農業

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

農業資材の土壌中での挙動など

中牟田 潔 教授 農学博士

専門：化学生態学



居室：C-106

E-mail：nakamuta@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/cel/

(1) 主な研究内容

- ・性フェロモンを用いた交信かく乱による被害低減
- ・ガ類性フェロモンの構造決定
- ・カミキリムシのフェロモン（構造決定、機能解明）

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・性フェロモンなどセミオケミカルを利用した生物被害制御

例：交信かく乱、モニタリング、天敵の誘引など

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

「ヒメボクトウの性誘引物質及びその性誘引剤」特許 4169331 号

坂本 一憲 教授 農学博士

専門： 植物栄養学、根圏微生物学、土壌微生物学



居室： B-101

E-mail： ksakamoto@faculty.chiba-u.jp

ホームページ： [千葉大 植物栄養](#)で検索

#### (1) 主な研究内容

植物栄養学は、植物の栄養元素の吸収・代謝メカニズムを解明することで、植物の生育向上を図ること、また土壌汚染や異常気象などの環境の悪化から植物を守ることを使命としている学問です。現在植栄グループでは、植物と微生物との共生関係を利用して、作物生産や環境保全に寄与する研究を進めています。

##### 1. ダイズと微生物の共生関係に關与する宿主遺伝子の解明

わが国の主要作物であるダイズと微生物（根粒菌・菌根菌）の共生関係に關与している植物（宿主）側の遺伝子の解明を行っています。これまでの研究で環境ストレスに応答する遺伝子群とトランスポーターの遺伝子群が共生によって高発現していることがわかりました。現在は明らかになった遺伝子の機能について解析しています。

##### 2. 菌根菌を用いた作物の環境ストレス耐性の強化

植物は周囲の環境から様々なストレス（高温、乾燥、重金属など）を受けながら成長していますが、菌根菌が共生することで植物の環境ストレス耐性が向上することが知られています。この菌根菌の植物への生理作用を遺伝子レベルで解明するとともに、遺伝子組換え技術を用いて菌根菌との共生関係を高め、ストレス耐性が強化された作物を作出することを目指しています。

##### 3. 菌根菌を用いたトマト果実の抗酸化活性の強化

野菜類の健康機能性のひとつとして抗酸化作用がありますが、最近当グループの研究によって植物の抗酸化活性が菌根菌との共生によって高まることが明らかになりつつあります。そこで本研究ではモデル植物でもあるトマト品種マイクロトムに菌根菌を共生させ、トマト果実中の抗酸化物質（リコピン）の含量を高める新技術について検討しています。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

農業・園芸業における土壌微生物の利活用

有機・無機廃棄物の農業・園芸業分野におけるリサイクル利用

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

特になし

八島 未和 講師 博士（農学）

専門： 土壤肥料学



居室：B-108

E-mail：matsushima@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/soil/

(1) 主な研究内容

1. 土壤中の炭素窒素循環に関する研究：とくに水田土壌を対象として、栽培期間中に無機化され植物が利用可能となる窒素量（窒素無機化量）の定量や、生物的に固定される窒素量などを調べている。また、炭素安定同位体比を使って、放出される炭素（二酸化炭素や易分解性炭素）の由来を調べている。
2. 土壌に投入された有機物の分解に関する研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

土壌の健康状態チェック（pH, EC, TC, TN の測定）、肥料施用の方針に関する助言

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究



西田芳弘 教授 農学博士

専門：糖質化学、生物有機化学



居室：松戸キャンパス B-117

E-mail：YNishida@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<https://research-er.jp/researchers/view/117286>

### (1) 主な研究内容

タンパク質、核酸研究の次は、糖鎖科学の時代です。本物の研究と境界領域分野の開拓が、糖鎖に託されています。糖誘導体が自在に扱える若手研究者の育成を行いながら、深刻な感染症問題を解決すべく、糖鎖医薬素材と糖鎖材料の開発を進めています。

以下、推進中のプロジェクト

- ・ 糖鎖ナノ材料の分子設計と実用化研究
- ・ 生物毒素の検出・中和・防除剤の開発
- ・ 植物免疫誘導剤の分子設計と応用研究
- ・ マイコプラズマ特異抗原の化学合成と感染診断薬への実用化研究
- ・ キラル蛍光修飾試薬の開発と生体分子分析
- ・ 糖鎖、糖脂質の化学合成、生物機能解析、三次元構造解析

### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

糖化学・化学合成・糖脂質・糖鎖材料・マイコプラズマ感染症・生物毒素検出・ドラッグデリバリーシステム（DDS）・バイオテロ対策・キラル分析・NMR分析・生体分子・三次元構造解析

### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

肺炎マイコプラズマ糖脂質抗原の合成法（特許取得）  
マイコプラズマワクチン（国内・国際（中国、米国）特許取得）  
プリオン抑制剤（特許取得）  
蛍光不斉誘導体化試薬（TBMBカルボン酸）の開発・実用研究  
機能性糖脂質の分子設計と応用研究  
機能性糖鎖材料の開発  
植物免疫誘導剤の分子設計と応用研究

渡辺正巳 教授 農学博士

専門：植物生化学、植物細胞生物学



居室：西千葉キャンパス 学際研究棟 312

E-mail：masamiwata@faculty.chiba-u.jp

#### (1) 主な研究内容

##### 1. 植物細胞の初期化・万能細胞化に関する研究

植物は細胞から個体再生する能力がありますが、葉から単細胞（プロトプラスト）を単離すると、多くの植物で再生能力が失われます。プロトプラスト単離時にプログラム細胞死が起こることが、細胞の初期化を妨げているので、細胞死を回避するメカニズムを研究しています。絶滅危惧植物の大量増殖にこの研究を応用したいと考えています。

##### 2. 天然物に由来する植物ワクチンの開発

植物の細胞壁分解産物に病原菌に対する防御応答反応を誘導する成分を確認しています。この成分を分離・同定し、植物ワクチンとして利用する研究を行っています。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物に含まれる有用成分

細胞・組織培養

化学肥料

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

植物細胞からのクローン個体再生技術の開発

天然物に由来する植物ワクチンの開発

児玉 浩明 教授 理学博士

専門：生物化学



居室：自然 2 号館-904 号室（西千葉キャンパス）

E-mail：kodama@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/seikalab/Kodama-index.html>

（千葉大学特色ある研究：

[http://www.chiba-u.ac.jp/research/coe\\_gp/result/result23.html](http://www.chiba-u.ac.jp/research/coe_gp/result/result23.html)）

#### (1) 主な研究内容

1. 未利用海産資源（小エビ、小カニ、小魚など）を高温で発酵させた好熱菌発酵産物は、ブタ、ニワトリなどの家畜に発酵飼料です。この発酵飼料を与えると、死産率の低下（ブタ）、成長促進（ブタ）、産卵率の向上（ニワトリ）などが認められ、生産性が向上します。投与されたブタのお肉では余分な脂肪分が減り、官能テストにより、柔らかくジューシーとの評価を受けました。現在、千葉大学発ベンチャー「株式会社サーマス」より「ノンメタポーク」として販売されています。好熱菌発酵産物の投与によって得られる家畜への「良い効果」は、好熱菌発酵産物に含まれるバクテリアによって家畜の腸内細菌叢が変化し、家畜の体調が良い状態に維持されることが原因と考えられます。そこで、家畜にとって「プロバイオティクス」として働いていると思われるバクテリアを単離し、得られたバクテリアを子ブタに投与したところ、増体効果が認められました。これらの成果は、千葉大学を含む産学連携グループによって特許として認められました（特許第5578375号）。中国とEUでも特許が成立しています。プロバイオティクスとして単離されたバクテリアには、すでに乳酸菌として利用されている *Bacillus coagulans* に加え、新種のバクテリアが含まれていました。種の同定を進め、*Bacillus hisashii*N-11<sup>T</sup>と命名して発表しました。これらの成果は日本農芸化学会2016年度大会にてトピックス賞として選ばれました。
2. 好熱菌発酵産物を植物に投与すると、土壌の余分な硝酸イオンを減らし、肥料の投与量を減らすことができます。さらに、作物の病害やネコブセンチュウ被害も減少できます。その一端には、微生物による脱窒作用やendophyteによる植物生長促進効果などが考えられます（特許第6057046号）。植物とネコブセンチュウに好熱菌発酵産物が与える影響についても研究を進めています。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

家畜動物のプロバイオティクス、腸内フローラ、コンポスト、土壌硝酸代謝、ネコブセンチュウ

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

1. 特許第 5578375 号 登録日 2014 年 7 月 18 日（国際出願番号：PCT/JP2011/52735）  
「好熱性微生物を用いた混合物、溶解液、及び医薬品」
2. 特許第6057046号 登録日2016年12月16日（国際出願番号：PCT/JP2013/67907）  
「土壌・水質汚染の改善、温暖化ガス発生抑制、並びに植物の機能性を向上させる微生物資材の製造方法」

土肥 博史 准教授 博士(工学)

専門：糖質科学



居室：自然科学総合研究棟2 903 (西千葉)

E-mail：hdohi@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/bunsei/>

#### (1) 主な研究内容

1. 化学的手法を用いた生理活性糖鎖の合成：生命維持活動や感染症に重要な役割を果たす生理活性糖鎖を効率的に合成するために、糖と糖をつなぐ新しい化学反応に関する研究を行っている。
2. マンノサミンおよび N-アセチルマンノサミンの簡便な調製法：脳機能改善効果を示すことがわかっているマンノサミンおよび N-アセチルマンノサミンを簡便に調製できる化学的手法の開発を行っている。
3. 微生物由来バイオサーファクタントの界面活性における構造依存性に関する研究：高機能型バイオインスパイアードサーファクタントの開発を目指し、強い界面活性効果を示す微生物由来バイオサーファクタントの構造異性体ライブラリーを化学的に構築することで、バイオサーファクタントの化学構造と界面活性の関係を調べている。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

生理活性糖鎖の入手および合成法、糖質関連化合物の単離および分析、二次代謝産物の構造解析

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

1. マンノサミンおよび N-アセチルマンノサミンの簡便な調製法
2. 微生物由来バイオサーファクタントの界面活性における構造依存性

園田 雅俊 講師 博士（農学）

専門：植物分子生物学



居室：B棟-114

E-mail：msonoda@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/shigen/

(1) 主な研究内容

- 1) 植物が傷ついた後に起こる生理機能を分子レベルから解析している。
  - ・ 傷害後に発生する一酸化窒素および活性酸素種による遺伝子発現制御機構の解明
  - ・ 果実の傷害後のポリフェノールオキシダーゼの遺伝子発現制御機構の解明
- 2) 高温ストレス環境下で起こる生理機能を分子レベルから解析している。
  - ・ 穏やかな高温ストレス環境下でのトマトの着果率低下の分子機構の解明
- 3) メロンの巻きひげ形成機構を分子レベルで研究している。
  - ・ メロンの巻きひげ形成を決定する転写因子（CmTCP1）の機能解析
  - ・ 巻きひげ特異的発現に関与する因子の探索
- 4) イチゴの香気成分合成に関わる遺伝子の発現調節機構について研究している。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物の傷応答、高温ストレス応答等

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当無し

園芸学研究科      コース      領域

相馬亜希子      講師      農学博士

専門： 分子生物学



居室： C101

E-mail： soma@chiba-u.jp

ホームページ： <http://www.h.chiba-u.jp/lab/bunsei/>

(1) 主な研究内容

- ・ tRNA のプロセシング機構の解析
- ・ 遺伝暗号の認識機構と進化の解析
- ・ 病原性細菌の低分子 RNA 分子の作用機構の解析
- ・

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ RNA を用いた生化学的解析
- ・ 真正細菌の遺伝学

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

江頭 祐嘉合 教授 博士（農学）

専門： 食品栄養学、分子栄養学、食品生化学



居室：C103

E-mail：egashira@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/foodnutr/

(1) 主な研究内容

- ・ 疾病予防を目指した哺乳類のトリプトファン代謝に関する基礎的研究
- ・ 難消化性多糖類・ファイトケミカルの糖・脂質代謝改善作用と機序に関する研究
- ・ 難消化性多糖類・ファイトケミカルの抗炎症作用と機序に関する研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 疾病モデルマウス・ラットを用いた食品の機能評価  
（糖尿病、肝炎、肥満、高コレステロール血症、脂質異常症モデル動物）
- ・ 免疫細胞・肝細胞を用いた食品の機能評価

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

天知誠吾 教授 博士（農学）

専門：応用微生物学、環境微生物学



居室：B-231

E-mail：amachi@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/bikou/

### (1) 主な研究内容

- ・漬物など発酵食品における微生物（細菌、酵母など）の菌相解析、分離、同定を実施
- ・食品や自然環境中からの有用菌（乳酸菌など）、有害菌（産膜酵母など）の分離、同定を実施
- ・新規な特性（色素脱色、毒性物質の分解、金属の酸化還元能）を持った微生物や酵素のスクリーニングと機能解析を実施
- ・微生物を用いた重金属など（ヒ素、アンチモン、臭素酸）の回収や環境浄化（バイオレメディエーション）実験を実施

### (2) コンサルタント可能なテーマ

- ・食品や環境中の有害菌・有用菌の調査、分離、同定
- ・新規な特性を持った微生物や酵素のスクリーニング、応用
- ・食品工場や環境中における殺菌技術の開発
- ・微生物の酵素を用いたヨウ素系殺菌剤の共同開発（ヨウ素は塩素系殺菌剤に比べて腐食性が低く、芽胞への効果もあるため、環境負荷低減型殺菌剤となりうる）
- ・微生物を用いた排水からの臭素酸除去技術の共同開発（発癌性のある臭素酸を無害な臭化物に還元する微生物を複数保持しており、さらなる応用研究を希望）
- ・微生物を用いた排水からのアンチモン回収・除去技術の共同開発（水質環境基準の要監視項目であるアンチモンを液相から効率的に除去する微生物を保持しており、さらなる応用研究を希望）
- ・微生物を用いた土壌中からのヒ素溶出・除去技術の共同開発（土壌環境基準項目であるヒ素を効率的に液相に溶出する微生物を複数保持しており、さらなる応用研究を希望）
- ・その他、食品や環境中の微生物に関するテーマ全般

### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・微生物酵素による色素脱色に関して、下記の特許を取得  
天知誠吾、吉川潤、堀口博文 "色素の脱色方法" 特願 2014-153326 (2014)  
"Method for decolorizing dye" 国際出願番号 PCT/JP2015/071375



華岡 光正 准教授 博士（農学）

専門：植物分子生物学



居室：西千葉キャンパス学際研究棟 308

E-mail： mhanaoka@faculty.chiba-u.jp

ホームページ： <http://www.h.chiba-u.jp/lab/tenure/>

(1) 主な研究内容

1. 植物葉緑体や光合成微生物を対象とし、光合成機能を最適化させるための遺伝子発現制御・細胞内情報伝達機構の研究を行っている。
2. 光合成生物が共通して持つ概日時計のメカニズムについて、その普遍性や特異性を明らかにするとともに、ストレス応答や物質代謝との関わりについて研究を行っている。
3. 薬用成分を作り出す植物を用いて、目的とする二次代謝産物量やそれに関わる遺伝子発現を高めるための生育環境条件の確立を目指した研究を行っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

植物や光合成微生物の遺伝子発現の定量解析、など

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

特になし

平井 静 准教授 博士（農学）

専門： 食品機能学、分子栄養学



居室：C-102

E-mail：shizuka@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/foodnutr/

(1) 主な研究内容

1. 妊娠期低栄養と次世代におけるメタボリックシンドローム発症との関連性およびそのメカニズムに関して、主にマウスを用いた研究を行っている。
2. 肥満および糖・脂質代謝異常の予防・改善に寄与する食品成分の探索およびそのメカニズムに関して、*in vitro* および *in vivo* の両面から研究を行っている。
3. 肥満と骨粗鬆症の同時予防作用を有する食品成分の探索およびそのメカニズムに関して、*in vitro* および *in vivo* の両面から研究を行っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

1. メタボリックシンドロームおよび骨粗鬆症の予防・改善に寄与する食品成分
2. マウスの飼育、繁殖
3. 各種細胞培養

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究  
現在のところ特になし

島田 貴士 助教 博士(理学)

専門：植物細胞生物学, 植物生理学, 植物病理学



居室：西千葉キャンパス 学際研究棟318

E-mail: tlshimada@chiba-u.jp

#### (1) 主な研究内容

専門は植物細胞生物学, 植物生理学, 分子細胞生物学で, 特に植物の脂質貯蔵オルガネラ・オイルボディに着目した研究を行っている。オイルボディが関わる新たな生理機能の解明を目指し, オイルボディ膜タンパク質やオイルボディ形成変異体の研究を進めている。また, 植物病理学に関する研究を行っており, 植物病原糸状菌である炭疽病菌を用いた研究も行っている。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ(キーワード)

植物細胞生物学, 植物生理学, 植物病理学, 分子生物学, 細胞内小器官, 脂質, オイルボディ, 病原糸状菌

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

脂質合成量が増加した植物, 有用脂質を高蓄積する植物の作出, 病原糸状菌に対して抵抗性を持つ植物の開発。

木下 勇 教授 博士 (工学)

専門：都市計画学、農村計画学



居室：B-304

E-mail：isamikinoshita@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/tcp/KinoshitaSite/Welcome.html>

### (1) 主な研究内容

- ・ワークショップ手法、住民主体のまちづくりに関する研究
- ・子ども参画による次世代への持続可能なまちづくりに関する研究
- ・オープンスペースの観点からの都市再開発、都市計画事業制度に関する研究
- ・都市計画および土地利用計画制度等の空間管理の制度と方法に関する研究
- ・子どもの遊び場、公園、遊び環境に関する研究
- ・NPO・市民参画による環境形成・管理の主体形成の理論と方法に関する研究
- ・環境教育・まち学習など次世代への持続可能な環境管理の理論と方法
- ・エネルギー生産等持続可能なむらづくりに関する研究
- ・パブリックオープンスペースの活性化、プレイスメイキングに関する研究
- ・安全なまちづくり（防犯、防災）に関する研究
- ・食べられる景観に関する研究
- ・伝統的町並みと文化的景観に関する研究

### (2) コンサルタント可能なテーマ

- ・ワークショップ手法、ファシリテーション技術
- ・住民参加の手続き、手法、企画・運営
- ・自治体基本計画の策定の手続き
- ・調査手法、インタビュー、アンケート、懇談会等の方法
- ・都市公園の計画、デザイン、管理運営等マネジメント
- ・逃げ地図を活用した、防災計画のためのリスクコミュニケーション活性化
- ・子どもを犯罪から守る防犯計画
- ・NPO等との連携、協働のまちづくりの推進

### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・JST RISTEX 研究開発領域「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」、多様な災害からの逃げ地図作成を通じた世代間・地域間の連携促進、日建設計ボランティア部および明治大学山本俊哉研究室、一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズとの共同研究、2018年日本建築学会教育賞受賞
- ・木下勇・江口亜維子・他木下勇研究室コミュニティリサーチグループおよび株式会社タカショーとの共同研究プロジェクト 住民参加型の食べられる景観づくり [「EDIBLE WAY -食べられる道」プロジェクト] (2017) 2017年度 グッドデザイン賞 コミュニティデザイン部門

古谷勝則 教授 学術博士

専門：造園計画学、風景計画、緑地保全活動



居室：B-301

E-mail：k.furuya@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

日本語：http://www.h.chiba-u.jp/lab/fuukei/furuya/

英語：https://fuukei.wordpress.com/

Wikipedia：https://ja.wikipedia.org/wiki/古谷勝則

#### (1) 主な研究内容

風景を国内外の事例研究から解き明かす風景計画の研究を推進しています。また、環境教育や技術者教育の研究もしております。千葉大学卒業後、千葉大学教員として1991年から勤務しております。同窓会や造園関連業界に精通しております。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

手法： 意識調査, インタビュー調査, ワークショップ等住民参加の合意形成

対象： 都市から農村, 自然環境まで,

用語： 景観計画, 自然環境保全, 土地区画整理事業, まちづくり協議会, 緑の基本計画

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

齋藤雪彦 准教授 博士（工学）

専門：まちづくり、農村計画・都市計画



居室：B-306

E-mail：ysait8971arch@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：千葉大学 齋藤雪彦 研究室で検索

(1) 主な研究内容

都市および地方計画

復興まちづくり、地方創生、集落計画、住民参加型まちづくり、農村空間管理計画、観光振興計画

景観計画、生活空間計画、中山間地域問題、余暇生活論、グリーンツーリズム

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

上記に関連するもの

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

特になし

霜田亮祐 准教授 博士（学術）/MLA

専門：風景計画学・ランドスケープアーキテクチャ



居室：B-324

E-mail：r.shimoda@chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/shimoda\\_r.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/shimoda_r.html)

(1) 主な研究内容

- ・集合住宅地開発における自然環境の構造化過程に関するランドスケープ計画論的研究
- ・自然・地域環境を母体とした都市と地域再生に関するランドスケープ計画論的研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ランドスケーププランニング・デザイン全般
- ・団地再生計画・設計
- ・自然葬地計画・設計

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究



居室:A-30

E-mail:i-konomi@ chiba-u.jp

ホームページ:http://www.h.chiba-u.jp/urbangreening/

(1) 主な研究内容

①公園再生を通じた地域の活性化に関する研究

国土交通省都市における都市緑地法関連関係の改正及び、その後の新しい時代のライフスタイルを反映した都市公園や広場のあり方に関する研究

②街路景観・街路樹再生などに Green Infrastructure に関する研究

国土交通省の道路緑化指針の改正に基づく、心地よく安全な街路空間のトータルデザインに関する研究。

・街路樹の現状を踏まえた、持続可能な街路のあり方を機能、管理、コストの観点から検討  
海外事例を踏まえた日本におけるグリーンインフラ計画のあり方についての研究(学術会議環境学分会)

③歴史的街並み・文化的景観保護活用に関する研究

国土交通省の社会資本整備審議会歴史的風土部会の部会長の立場を踏まえた全国の歴史的街並み整備の促進に関する実践的研究

④文化財保護活用に関する研究

各地で土木技術者などとともに、名勝における海岸景観、河川景観などのあり方を研究  
歴史文化基本構想に関する研究

⑤団地再生にかかわる実践と研究

UR 都市再生機構での兼務経験を活かした建築空間や屋外施設、サイン、照明などを含む団地の屋外景観のトータルコーディネートによる団地再生の実践的研究

⑥世界の自然葬にかかわる研究

海外の先進事例調査を踏まえた日本での合奏墓をはじめ新たな墓地空間のあり方を提案

(2) コンサルタント可能なテーマ

上記内容を含む、再開発事業スキームの提案

時代を反映した新しい公園、広場、都市農地などの活用に関する提案

文化財に関わらず地域の文化的資源を用いた地域活性化方策の提案

快適で地域から愛される街路樹空間の持続的な計画管理のあり方に関する提案

時代のニーズに合った地域から愛される墓地空間の提案

集合住宅の屋外空間のトータルデザインを踏まえた集合住宅のリニューアルに関する提案

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

・埋設型植栽プランター(特許2015-072420)などを開発し、効率的な街路植栽の整備・管理のあり方を国土交通省道路局などと協働で実践



三谷 徹 教授 博士 (工学)

専門：ランドスケープデザイン



居室：A-203

E-mail：mitani@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/mitani\\_t.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/mitani_t.html)

#### (1) 主な研究内容

ランドスケープのデザイン設計の実践を通しての、形態論、空間デザイン論、近代ランドスケープ論、および、庭園の空間形態に関する研究。

作品：風の丘（大分 1997）／品川セントラルガーデン（東京 2003）／Honda 和光ランドスケープ（埼玉 2005）／島根県立古代出雲歴史博物館ランドスケープ（島根 2006）／YKK 黒部事業所センターパーク（富山 2008）／奥多摩町森林セラピートレイル（東京 2010）／町田市庁舎ランドスケープ（東京 2012）／柏の葉キャンパスシティーランドスケープ（千葉 2014）／静岡県富士山世界遺産センター・水の広場（静岡 2017）など。

著書：風景を読む旅（丸善 1990）／アースワークの地平（翻訳、鹿島出版会 1993）／モダンランドスケープアーキテクチャ（翻訳・編著、鹿島出版会 2007）／場のデザイン（共著、彰国社 2011）など。

研究：月光環境下における禅宗様庭園のシミュレーション分析（共著、ランドスケープ研究 2006）／樹冠下の光環境からみる廻遊式庭園の空間構成（共著、ランドスケープ研究 2007）／蘇州庭園における池護岸と園林建築のデザインの相関性に関する研究（共著、ランドスケープ研究 2013）／韓国別墅庭園からの可視領域分析による景観特性の研究（共著、環境情報科学論文集 2015）など。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

ランドスケープデザイン

庭園デザイン

都市のオープンスペース計画設計

パブリックアート・ランドアート

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

新しい緑地利用とその空間計画・設計、景観資材、土木資材、照明、サイン、ファニチュア等のデザイン開発と意匠登録、など。

園芸学研究科 緑地環境科学コース 領域

章 俊華 教授 博士(学術)

専門：ランドスケープ・アーキテクト



居室： A-201

E-mail： zhang@faculty.chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

- ・ 伝統庭園空間の構成及び特徴
- ・ 漢字文化圏の伝統庭園の比較
- ・ 図面や文字データからみた環境文化の空間表現学

(2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

- ・ ランドスケープ計画及び設計

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

(4) その他の社会的活動

- ・ 作品：「恬園」、「Ming Garden」、「Ruifeng Winery」、「Solidarity Park」など
- ・ 著書
- ・ 「無独有偶——場所与秩序的考量」.中国建築工業出版社(2018).
- ・ 「合二為一——場地与機理的解読」.中国建築工業出版社(2017).
- ・ 「千里千秋——空間与時間的対話」.鳳皇空間出版社(2015).
- ・ (共著)「Landscape 資産」(2012)/「Landscape 感悟」(2011)/「Landscape 感性」(2010).など、中国建築工業出版社.

木下剛 准教授 博士(学術)

専門： 造園学、ランドスケープデザイン



居室: A-301

E-mail: [tkinoshita@faculty.chiba-u.jp](mailto:tkinoshita@faculty.chiba-u.jp)

ホームページ, SNS

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/kinoshita\\_t.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/kinoshita_t.html)

個人ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/taakyon>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/takeshi.kinoshita.545>

ツイッター: <https://twitter.com/kinoshitakeshi>

#### (1) 主な研究内容

##### ① グリーンインフラストラクチャー（以下、グリーンインフラ）の導入モデルの検討

日本の気候風土・歴史文化・土地利用・制度環境に適合したグリーンインフラ/生態系インフラの導入手法～保全・創出・再生のあり方～について研究を行っています。法制、政策・施策、事業等々、様々なレベルでの導入検討を行っています。

##### ② 持続可能な生存単位の研究

繰り返し訪れる自然災害、社会・経済の変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域を見つけ、その長期持続の要因を解明するための学際的研究(千年村プロジェクト<sup>®</sup>)を行っています。詳しくは千年村プロジェクト<sup>®</sup>ホームページをご覧ください。<http://mille-vill.org/>

##### ③ 公園再生、公園を核とした地域社会の再生手法

社会的包摂(Social inclusion)の場(手段)としての公園(再生)のあり方について研究しています。欧米先進諸国ではマイノリティや社会的に弱い立場にある人々を地域社会の一員として取り込み、支え合う手段の一つとして公園緑地が機能しています。格差や排除が広がる日本でもこうした視点から公園緑地の再生、地域社会の再生を考えていく必要があります。

##### ④ 海外の空間計画・緑地計画制度に関する研究

英国の国土計画、ローカルプラン、グリーンインフラ戦略、ランドスケープパートナーシップ等の計画制度を対象として、ランドスケープの保全・創出・再生に係る政策統合、施策連携の手法について研究しています。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ(キーワード)

- ・ 都市緑化・都市再開発・団地再生等におけるグリーンインフラの導入検討
- ・ 各種都市施設(公園, 河川, 道路等)へのグリーンインフラの導入検討
- ・ 都市公園の再整備・改修設計, 都市公園等の利用実態調査
- ・ 各種基本計画(緑の基本計画・広域緑地計画, 都市マス, 景観計画等)の策定
- ・ パークマネジメントプランの立案, 指定管理者の選定・評価
- ・ 海外(特に英国)の公園緑地・グリーンインフラ・ランドスケープの計画・事業に関わる法制および実施事例の調査

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・ グリーンインフラの計画・設計・施工に係る技術開発

柳井 重人 准教授 博士（農学）

専門：環境造園学・緑地環境管理学・ランドスケープマネジメント



居室：D-202

E-mail：yanai@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yanai\\_s.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yanai_s.html)

#### (1) 主な研究内容

1. 社会・地域課題の解決に対応した都市公園のマネジメントのあり方を研究している。個々の都市公園の活性化やマネジメントはもとより、都市公園の統廃合や機能再編、公開空地や都市農地との連携、官民連携を含めた地域価値の向上など、都市公園を拠点としたエリアマネジメントへの展開の面からも研究を進めている。
2. 管理放棄地のパブリックスペースとしての再生と活用のあり方を研究している。特に、市街地縁辺部に存在する管理放棄樹林（かつての里山）、耕作放棄地、未利用地等を対象に、市民団体による活動の推進と担い手の育成、放棄地の再生から公開に至るまでのプロセスや主体間の関係性の構築などの面から研究を進めている。
3. 市民・企業・行政のパートナーシップに基づく緑のまちづくりに関する研究をしている。住居系、工業系、業務商業系市街地における官民連携を基調とした緑のまちづくりについて、活動プロセスの設計、活動内容の多様化と地域展開、多主体間の連携システムの構築等の観点から検討を進めている。
4. そのほかに、企業緑地（工場緑地、屋上緑地、公開空地等）のマネジメント、緑地保全・緑化推進制度・施策の効果と課題、都市緑地の多面的機能の解析・評価、地域固有のランドスケープ資源の保全に関する研究などにも取り組んでいる。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

パークマネジメントプランの作成、企業緑地等の管理運営の改善、里山等の民有緑地の保全・公開活動の実践および担い手の育成、緑地資源の活用を基調とした地域づくりの実践、「緑の基本計画」や「環境基本計画」の作成、緑地保全・緑化推進施策の運用改善、パートナーシップに基づく緑のまちづくりの推進

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究 特になし

秋田 典子 准教授 博士（工学）

専門：緑地環境管理学、土地利用計画、空間マネジメント



居室：D-203

E-mail：noriko@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/research/laboratory/lab-09.html>

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/akita\\_n.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/akita_n.html)

### (1) 主な研究内容

- ・人の活動と自然環境の共生のための土地利用のあり方に関する研究：開発事業やスプロール等、人の活動に伴い生じる自然環境の改変に対し、人の活動の立地を適切にコントロールすることで貴重な自然環境を保全し、地域の活性化等の人の活動の側面と自然環境の保全を実現するための研究と条例等を通じた実践
- ・コンパクトシティ形成過程における非集約エリアの土地利用マネジメントに関する研究：人口減少時代において、立地適正化計画等に基づき非集約エリアとなった地域において、そこに居住する住民の暮らしの質を維持し、土地利用の荒廃を抑止し、更なる土地の開発を抑制するための研究と自治体における計画策定等を通じた実践
- ・緑地を通じた被災地（低平地）の復興に関する研究と実践：東日本大震災の被災地において、災害危険区域に指定された低平地の土地利用のあり方について、コミュニティガーデンづくり等の実践を通じた研究を継続的に実施
- ・都市再生プロジェクトにより生成された緑地の評価と都市再生プロジェクトの実践：都心の都市再生プロジェクト（大規模再開発事業）に関する緑地の観点からの評価。松戸駅周辺の都市再生プロジェクトの実践と研究
- ・環境アセスメントに関する実践と研究：広域自治体レベルの大規模開発事業に関する環境アセスメントの実施。2020 東京オリンピック・パラリンピックの全ての競技場に係る環境アセスメント（IOC 指定国際基準項目：土地利用）の実践
- ・パブリックな緑地空間の基本構想策定に関する実践と研究：上記の被災地における低平地の土地利用構想の策定や、国が設置する復興祈念公園の基本構想等の検討に係る実践と研究

### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

土地利用マネジメント、非集約化エリアの土地利用コントロール、開発許可、立地適正化計画、低平地の土地利用、まちづくり関連条例の策定、景観マネジメント、環境アセスメント

### (3) その他の社会的活動

日本造園学会理事、日本土木学会・景観デザイン委員会幹事、福島県復興祈念公園・空間デザインワーキング委員、国土交通省社会資本整備審議会・都市計画基本問題検討委員など

近江慶光 助教 博士(学術)

専門:環境植栽学



居室:E-508

E-mail:y-omi@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/omi\\_y.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/omi_y.html)

(1) 主な研究内容

都市における緑の創出・保全に関する研究

公園緑地や街路樹における植栽管理に関する研究

公園緑地等における市民協働の緑地管理に関する研究

高木・巨樹・巨木の保全に関する研究（環境教育・環境学習などの観点から）

(2) コンサルタント可能なテーマ

緑の創出・保全に関する調査

公園緑地や街路樹における植栽管理に関する調査

環境改善等のための公園改修に関する調査

市民協働の公園管理に関する調査

指定管理者制度への参加

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

(4) その他の社会的活動

柏市緑政審議会委員

柏市緑の基金評議委員

市川市緑の調査委員

我孫子市景観アドバイザー

葛飾区環境学習教材（小学生用・中学生用）監修

日本造園建設業協会 街路樹剪定士認定委員会委員

本條 毅 教授 農学博士

専門：緑地環境情報学



居室：D-503

E-mail：honjo@faculty.chiba-u.jp

ホームページ <http://www.h.chiba-u.jp/lab/terra/>

(1) 主な研究内容

1. 都市緑地の熱的効果の測定とシミュレーション
2. ヒートアイランド動態の測定
3. 壁面、屋上緑化したときの熱流解析
4. 景観可視化

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

緑地の気象観測、気象シミュレーション、CG による景観の可視化

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

気象測定やモデルのアルゴリズム開発

梅木 清 准教授 博士（理学）

専門： 森林生態学, 植物生態学



居室：D-502

E-mail：umeki@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/umeki\\_k.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/umeki_k.html)

(1) 主な研究内容

- ・シカ採食圧下の天然林の動態研究
- ・森林内の生物間相互作用の研究
- ・樹木の機能的・構造的モデルの研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・シカ採食圧下の天然林管理
- ・地域・景観レベルの人工林管理

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当なし



小林達明 教授 博士（農学）

専門：再生生態学



居室：D-403

E-mail：ktatsu@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/helloeps/

#### (1) 主な研究内容

1. 福島第一原発事故によって放射性セシウムによって汚染された里山の再生について、森林や畑地の放射性セシウムや有機物・カリウム動態の把握と将来予測モデルの作成を進めながら検討している。また、山菜等の里山資源の利用可能性について、調査・実験を行いながら検討している。
2. 生物多様性保全のための地域性種苗を用いた緑化方法や外来種管理方法について、房総半島のミツバツツジ類群落再生、北総台地の湿地再生、丘陵地の林床植物群落の保全、などを事例に総合的に研究している。
3. レーザー測量による林冠構造の把握をもとにした都市緑化樹木の蒸散量や二酸化炭素吸収量、放射収支等の生理生態的機能の予測モデルについて検討している。
4. 湿地の生態的機能と防災機能について研究し、海岸林や調整池の設計や管理指針について検討している。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

生物多様性緑化、地域性種苗、外来植物管理、樹木個体や樹林の生態機能モデル、海岸林設計、自然環境放射線防護

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

- ・ 樹木個体や樹林の生態機能モデル

百原 新 教授 理学博士

専門：植生史学および植物生態学



居室：D-307

E-mail：arata@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/seitai/member/momohara.html>

#### (1) 主な研究内容

1. 遺跡発掘調査に伴って出土する種子・果実や葉の遺体を分析し、現在目にする地域の自然が人との関係の中でどのように形成されたかを調べている。
2. 全国の遺跡出土大型植物遺体データベース（国立歴史民俗博物館と共同で作成）：[https://www.rekihaku.ac.jp/up-cgi/login.pl?p=param/issi/db\\_param](https://www.rekihaku.ac.jp/up-cgi/login.pl?p=param/issi/db_param) などの植生史情報に基づき、その地域本来の植生が何か、各地域でどのような植生を保全・再生すべきか、緑地の造成にはどのような植栽がふさわしいかを評価する。
3. 湿原の現存植生の調査とボーリング調査に基づき、湿原の形成に気候変動や地形変化、人為が及ぼした影響を研究している。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

地域の環境史復元に基づく景観設計、埋土種子調査、自然再生、湿原植生管理

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

水草の種子の発芽処理方法および植付け方法（特許第 4463754 号）

高橋輝昌 准教授 博士(農学)

専門：再生生態学



居室：D-402

E-mail：teru@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/helloeps/>

#### (1) 主な研究内容

##### 1. 緑地の樹木管理で発生した剪定枝等の植物廃材の活用

都市緑地では、植物廃材が排出され続けますので、植物廃材を持続的に活用する技術を開発しています。

##### 2. 様々な形態の緑地における物質循環特性の解明

都市緑地の管理に活用できる基礎的な知見を得るために、緑地の形態と物質循環特性の関係—どのような緑地をつくれれば、どのような物質循環系が形成されるのか—を明らかにします。

##### 3. 緑地の植栽基盤の評価と改良技術の開発

緑地の形態や利用目的に応じた植栽基盤の改良方法について検討します。

##### 4. 都市化や人為が緑地生態系におよぼす影響の解明

都市環境が緑地にどのような影響を与えているのかを把握し、都市環境に適した緑地の造成・管理方法の確立に役立てます。

##### 5. 緑地の炭素固定機能の評価

都市緑地に固定される炭素量を植物と土壌の両面から評価する手法を開発し、実際に評価を試みます。

##### 6. 緑地の「自然らしさ」の評価手法の確立

「自然らしさ」を「生態系の持続性」ととらえ、簡易に「自然らしさ」を評価する方法を考案します。

##### 7. 環境と植物生育との関わりの解明

様々な目的を持って植栽される植物を健全に生育させるため、特定の植物種ごとに、生育に適した環境を明らかにします。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

1. 植物廃材の活用方法
2. 緑地の植栽基盤の評価と改良方法
3. 緑地の炭素固定機能の評価手法
4. 持続可能な緑地の造成・管理方法
5. 植物の生育に適した環境の把握

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

上記(1)、(2)に関するテーマであれば、協力可能です。

加藤 顕 助教 Ph. D.

専門：森林リモートセンシング



居室：D-405

E-mail：akiran@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://akira-kato.org/

#### (1) 主な研究内容

主な専攻は森林リモートセンシング、GIS、景観生態学。修士の研究は衛星画像を用いてインドネシアで行い、博士の研究は3次元レーザーデータを用いてワシントン州シアトルで行った。高解像レーザーを用いて詳細に森林構造を把握することが専門である。近年は、地上レーザーデータから自動で毎木調査を行う手法を確立し、里山での木質バイオマス量の正確な把握や生態系サービスの定量化を行っている。レーザーを用いた研究に対して2008年アメリカ写真測量学会から賞を受賞。現在の主な関心は、ドローン（UAV）や地上レーザーを世界の様々な森林（熱帯林や温帯林）に導入し、衛星のグランドトゥルースとなる現場での森林モニタリング技術を確立している。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

バイオマス、3次元データ、レーザー、ドローン、UAV、SfM、モニタリング、コンピュータ・グラフィック、統計解析、Google Earth Engine

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

発明者 加藤 顕：「表面再現方法及び表面再現プログラム」特許 5522367 号\_P09-048

発明者 加藤 顕：「表面再現方法及び表面再現プログラム」特許 5911114\_P09-048-2

発明者 加藤 顕：「三次元測定対象物の形態調査方法」特許 5844438\_P12-068-2

発明者 加藤 顕：「魚眼画像データ作成プログラム及びLAI算出プログラム」特願 2013-020951 号

発明者 加藤 顕：「データ重ね合わせプログラム及びデータ重ね合わせ方法」特開 2016-70708 号

#### 共同研究経緯

これまで樹木のバイオマス計測に、3次元データを用いて非破壊でバイオマス計測を行う技術を確立しており、これまで NEXCO ハイウェイエンジニアリング東京、住友林業、日本製紙、中央航業、富士設計、佐賀県唐津市、東京都から研究費をもらい、共同研究を行った経緯がある。政府の関連予算として、科研費、環境省研究総合推進費、NEDO、JST 知財ハイウェイなどを研究代表として競争的研究費を取得。

氏名 宮崎良文 教授 医学博士  
専門： 自然セラピー学



E-mail : ymiyazaki@faculty.chiba-u.jp

ホームページ :

<http://www.fc.chiba-u.jp/research/miyazaki/index.html>

#### (1) 主な研究内容

研究の目的は、花きセラピー、木材セラピー、公園セラピー、森林セラピー等の自然セラピーがもたらす生理的リラックス効果ならびに免疫機能改善効果を明かにすることによって、自然セラピーが持つ予防医学的效果を解明することである。

生理評価としては、1) 脳機能 (近赤外分光法等)、2) 自律神経機能 (心拍変動性、血圧等)、3) 内分泌機能 (唾液中コルチゾール等) および、4) 免疫機能 (NK 細胞活性等) を用いる。

生理実験は、1) フィールド実験 (森林セラピー、公園セラピー、ガーデンセラピー等) ならびに 2) 室内実験 (五感を介した花き、木材等の刺激) の両面から実施する。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

花きセラピー、木材セラピー、庭園セラピー、公園セラピー、森林セラピー、自然セラピー、脳活動、自律神経活動、ストレスホルモン、生理的リラックス効果、免疫機能改善効果

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

岩崎 寛 准教授 博士(農学)

専門：緑地福祉学、環境健康学、人間・植物関係学



居室：E-503

E-mail：iway@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/iwasaki/iwasaki.html>

#### (1) 主な研究内容

1. 園芸療法、アロマセラピー、森林セラピー、気候療法など植物の療法的効果に関する研究をおこなっている。いずれも人と植物とのより良い関係について、緑地や植物からの視点だけでなく、医学、薬学、看護学など様々な視点から研究を進めている。

2. 病院緑化や高齢者施設の緑化など医療福祉施設における緑化の研究をおこなっている。いずれも生理的側面や心理的側面からの実験、調査を進めることにより、エビデンスに基づく植栽計画、利用提案をおこなっている。

3. オフィスにおけるパフォーマンス向上のための緑化、子育て中のストレス緩和を目的とした園芸プログラムなど、健常者のストレス緩和を目的とした緑化や園芸プログラムの検証、実践、提案を行っている。また身近な公園を活用した健康対策として「公園浴」の提案をしている。

4. 地域ケア、地域福祉としての地域緑地の利活用に関する研究を行っている。具体的には地域高齢者の健康支援としての福祉農園の計画と園芸療法プログラムを実践している。

5. 園芸療法による被災地支援活動を千葉大学看護学研究科と連携して実践している。これまでに福島県における仮設住宅や、陸前高田市における子育て支援施設において、被災者のメンタルケアを目的としたとして園芸療法を実施している。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

園芸療法、病院緑化、ストレス緩和、屋内緑化、オフィス緑化、被災者支援、緑地を活用した健康プログラム

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

1. 緑地評価システムおよび緑地評価方法 (JP 2016-31546 A 2016.3.7)
2. 緑地評価装置、緑地評価方法および緑地 (JP 2010-240018)

三島 孔明 准教授 博士（学術）

専門：環境教育、食農教育、人間植物関係学



居室：D305

E-mail：koumei@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp/lab/etedu/>

#### (1) 主な研究内容

- ・自然環境の理解や体験の促進に関する分野として、学校ビオトープの課題や、教員・保育士向けの自然体験活動指導用の教材開発、視覚障がい者向けの植物園のプログラムの改善、緑地保全活動への参加促進を目指した自然体験プログラムの検討等に関する研究を実施
- ・食農教育、食育の促進に関する分野として、中学校の技術・家庭科の「生物育成に関する技術」の課題や、親の野菜への意識・関わり、学校における保護者向け食育の取り組み等に関する研究を実施
- ・環境教育や保全活動の実践者・指導者の養成に関する分野として、学生がプログラムの企画実施をするプロジェクト型授業の実践とその課題の検討や、地域連携による大学生の環境教育指導力養成の検討、造園系技術者の継続的能力開発のプログラムの課題等に関する研究を実施
- ・自然環境に触れる活動の基礎的な把握に関する分野として、校庭の芝生が校庭の利用や児童の動植物に対する関心に及ぼす影響、ムシ嫌いの要因や背景、若年層の草花遊びの経験の現状等に関する研究を実施

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・自然体験、農体験、環境学習等の教材・ツール、プログラムの開発
- ・自然体験、農体験、環境学習等の指導者養成用の教材・ツール、プログラムの開発
- ・環境・造園系の技術者の継続教育（CPD）プログラムの改善に関する調査

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

現在は特になし

野田勝二 助教 博士（農学）

専門：果樹園芸学、園芸福祉



居室：環境健康フィールド科学センター 212

E-mail： k\_noda@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/lab/noda/noda\\_top.html](http://www.h.chiba-u.jp/lab/noda/noda_top.html)

(1) 主な研究内容

植物の揮発性成分と、その活用に関する研究

園芸作業の福祉的活用に関する研究

園芸用設備の開発と活用に関する研究

まちづくりとコミュニティ形成に関する研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

園芸とまちづくり

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究



櫻井 清一 教授 博士（学術）

専門：農業経済・食品流通および農村社会に関する研究



居室：C-408

E-mail：sakurai@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/sakurai\\_s.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/sakurai_s.html)

(1) 主な研究内容

1. 農産物・食品の流通・マーケティングに関する研究：主に青果物を対象に、卸売市場流通の成果、農産物の共同出荷の効率性、市場外流通の普及可能性などを分析している。
2. 農産物直売所に関する研究：直売所の組織運営、出荷者の行動、顧客による直売所の評価などを分析。研究暦 20 年以上。海外の分析例もあり。
3. 農村経済の多角化に関する研究：農業部門による加工や流通への進出、多角化を支援する事業（農商工連携・6次産業化など）の課題などを分析している。
4. 農村の社会関係に関する研究：農村住民のソーシャルキャピタル（社会関係資本）、人付き合いに関する分析や、新しい農村組織（女性起業組織、ツーリズム関連組織など）の諸問題を研究している。
5. 農業に関する新技術の社会性評価に関する研究：ナノテクノロジーの食品部門への導入が企業運営に及ぼす影響や遺伝子組替えカイコの普及可能性についての分析例あり。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

食品の流通・マーケティング、農産物直売所、農業経営、農村経済の多角化、農商工連携、6次産業化、海外農業、技術の社会性評価

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

吉田 義明 准教授 博士(農学)

専門： 農業経営学 社会政策論



居室：C401

E-mail：yoshiaki@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yoshida\\_y.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yoshida_y.html)

(1) 主な研究内容

- ・ 種苗を視点とした比較園芸経営研究
- ・ 農村女性に関する研究
- ・ 農村福祉に関する研究
- ・ 科研費基盤研究（C）アジア地域における種苗供給と植物遺伝資源利用に関する経営的研究

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 園芸経営における植物知財活用事例紹介
- ・ 経営資源を活用した副部門構築のフィジビリティ・スタディ

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

矢野 佑樹 講師 学術博士 (Ph.D.)

専門：農業・環境経済学



居室：C-402

E-mail：y.yano@chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yano\\_y.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/yano_y.html)

(1) 主な研究内容

1. 機能性野菜などの新しいタイプの農産品に対する消費者ニーズを明らかにするために、近年急速に開発の進んでいるテキストマイニング（文章データ分析）手法を用いて研究を行っている。
2. 政策に対する市民の声や農業・環境に対する意識を深く探るために、よりコストパフォーマンスの高い調査・分析枠組の開発を行っている。
3. エネルギー価格（国際原油価格）や為替レートが農家の経営に与える影響を、時系列データを用いて統計的に分析している。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

マーケティングリサーチ（消費者意識・ニーズの把握）、市民の声の分析、データ分析手法（統計的手法） ※アンケートやインタビュー等の調査設計からデータ収集・分析手法まで

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当なし

石田貴士 助教 博士(経営学)

専門： 計量経済学・マーケティング論・消費者行動論



居室：C-409

E-mail：t.ishida@chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

- ・ 地域ブランドのブランド価値の評価
- ・ 食・農と観光資源の融合による地域活性化戦略のあり方
- ・ 消費者のリスク認知構造の解明とリスク・コミュニケーション
- ・ 食品企業がCSR活動として行う食育活動の効果の測定

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

- ・ 観光によるまちおこし
- ・ アンケート調査をベースとしたマーケティングや政策評価
- ・ 食品の安全・安心と消費者

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当なし

園芸学研究科 食料資源経済学コース 資源環境経済学分野

大江靖雄 教授 博士（農学）

専門：農業経済学、農村経済学、農村ツーリズム、農業経営多角化、観光経済学



居室：B318

E-mail: yohe@faculty.chiba-u.jp

ホームページ：http://www.h.chiba-u.jp/lab/en-joho/ohe.htm

#### (1) 主な研究内容

・我が国の都市農村交流、農村ツーリズム、農泊が経済的に自立して成立するための要因を、イタリアのアグリツーリズムと比較しながら解明。また、仏、フィンランド、タイなどの研究者と同様の共同研究を実施。

・これまで利用されていなかった、あるいは以前は利用され現在は利用されていない地域資源を、活用した地域産品の開発や交流型ビジネスの成立の要因の分析を実施。

・具体的には、現在力を入れているのは、自然科学者との共同研究により、農村資源の価値の見える化への取り組み。

これまでの共同研究例(国内)として、森林セラピーのエビデンスベースな農泊成立の条件と課題（生理人類学の宮崎教授との共同研究）、房州枇杷の葉の機能性を活用した新商品開発に関する基礎研究（食品栄養学の江頭教授との共同研究）、和梨の剪定枝を活用した化粧品開発の共同研究（江頭教授、矢野講師、加藤特任助教との共同研究）など。

・食育に関する研究で、これまで注目されていない特に企業による食育の取り組みとその効果に関する国内および欧州3ヶ国の調査・研究を実施。欧州3ヶ国は、仏、伊、フィンランドを対象。

#### (2) コンサルタント可能なテーマ

- ・都市農村交流、農村ツーリズム、農泊の成立条件の調査・研究、および情報提供
- ・地域資源活用を活用した新製品やツーリズムの開発に関する調査・研究、および情報提供
- ・イタリア・アグリツーリズムの現状と課題に関する情報提供
- ・企業の食育活動に関する調査とその効果に関する研究、および情報提供

#### (3) その他の社会的活動

農林水産省農山漁村振興交付金事業評価委員会座長、内閣府地方創生推進交付金評定委員、千葉県農政審議会会長、Jミルク乳の学術連合幹事、酪農教育ファーム推進委員会会員、松戸市食育推進会議会長、日本観光学会編集委員長・理事、総合観光学会理事、Tourism Economics 誌編集委員

著書：大江靖雄編著『都市農村交流の経済分析』農林統計出版、2017.

大江靖雄著『グリーン・ツーリズムー都市と農村の新たな関係に向けてー』千葉日報社、2013.

大江靖雄著『農村多角化の経済分析』農林統計協会、2003.

高垣美智子 教授 博士（農学）

専門：熱帯農学



居室：B-312

E-mail：mtgaki@faculty.chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

熱帯在来野菜の新規利用、機能性に関わる研究

農業の環境負荷低減に関する検討

光環境等が植物の生育、収量、二次代謝に及ぼす影響

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

東南アジアとの連携

極東ロシアとの連携

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

特になし

小林 弘明 教授 博士 (農学)

専門：食料資源経済学



居室：C-407

E-mail：koba000@chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.h.chiba-u.jp>

(1) 主な研究内容

1. アジア開発途上国の農業・農政、食料需給、消費者行動を現地調査やアンケート調査などによって研究している。2016・17年度には国立研究法人国際農林水産業研究センターからの受託研究「持続的農村発展のためのバリューチェーン評価手法の開発」を実施し、タイとラオスのコメのバリューチェーンと消費者行動を考察した。
2. 自由貿易協定ないし地域貿易協定による農産品貿易への影響を、わが国のEPAの下での動向、またASEAN経済共同体における動向から考察する研究プロジェクトを進めている。現在科研費基盤研究(B)「ヌードルボウル現象下のASEAN自由貿易地域の貿易創出効果に関する実証分析」により研究グループを組織し、2017年度にはインドネシアとマレーシアの関係機関を訪問して研究推進に向けた意見交換を行った。
3. 食品需給研究センターによる農林水産省委託事業に学識経験者として参加し、わが国のカロリーベース食料自給率の変動要因を定量的に評価する分析枠組みの提起・試算をおこない、結果は同研究センターウェブサイトに掲載されている (<http://www.fmric.or.jp/stat/04.html>)。
4. 過去10年以内に研究代表者として行った上記以外の科研費研究課題は下記のとおり。
  - 基盤研究(C)「FTA/EPAの関税引き下げが農産物の輸出入に及ぼす影響の事後評価分析」(2014-16)
  - 基盤研究(C)「食料輸出国による農業保護の総合的評価と国際市場の攪乱要因に関する計量経済学的研究」(2010-12)
  - 基盤研究(C)「食料輸出国の国内保護政策による輸出促進効果に関する計量経済学的研究」(2007-09)

(2) コンサルタント可能なテーマ (キーワード)

政策評価の分析

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

栗原伸一 教授 博士（農学）

専門：農業経済学，農業経営学



居室：B-315

E-mail：kuri@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/kurihara\\_s.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/kurihara_s.html)

#### (1) 主な研究内容

アンケート調査に基づく農村地域計画や政策評価に関する研究を行ってきたが、近年は食品安全性の経済学的研究や消費者行動に関する研究が中心となってきた。例えば、下記のような研究に取り組んでいる。

1. 機能性作物に対する生産者・消費者意識に関する研究
2. 放射能検査情報が購買行動に与える影響に関する研究
3. 農業センサスや家計調査の個票分析

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

統計解析, マーケティング, アンケート調査

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

該当無し





居室：C404

E-mail：a.maruyama@faculty.chiba-u.jp

ホームページ

[http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/maruyama\\_a.html](http://www.h.chiba-u.jp/academics/staff/maruyama_a.html)

#### (1) 主な研究内容

- ・ 持続的な農村開発に必要な社会経済学的要因の抽出
- ・ 気候変動に対して社会的に脆弱な地域や農村・農家の特定
- ・ 農業の生産及び経済効率性の計測と改善方法の提示
- ・ 都市環境及び農村資源の有する多面的価値の経済学的評価
- ・ 環境及び食品リスクに対する消費者認知構造の解明
- ・ 農産物のマーケティングに関わる消費者行動分析

#### (2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

アンケート調査の設計・実施

データ解析一般

#### (3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究

なし

加藤 恵里 特任助教 博士（農学）

専門：農村社会学・林政学



居室：B-313

E-mail：e\_kato@chiba-u.jp

(1) 主な研究内容

- ・野生動物と人間の関わりから、今後の日本の農山村のあり方を考えている。
- ・地域住民へ聞き取り調査を主な研究手法として取り組んできた。
- ・学位論文のタイトルは、「集落ぐるみの獣害対策の評価と今後の地域資源管理のあり方—社会関係資本の視点から—」
- ・調査のフィールドは、栃木県、大分県の各農村であり、千葉県でも調査を始めている。
- ・獣害対策をきっかけとした地域づくりや、中山間地域への若者の関わり方などにも興味を持っている。
- ・最近では、ジオパークやユネスコエコパークなどの自然保護地域と観光の関わりや、海外の保護地域に関わり NPO 等の活動にも興味を持っている。

(2) コンサルタント可能なテーマ（キーワード）

(3) 特許の活用や特許等の取得を目的とする共同研究